

骨子表（2023 版） 建設部門 I 問題用（I-1）巨大地震に対して地震災害に屈しない強靱な社会の構築を実現するための方策

課題（及び問題）	課題分析（問題分析）	解決策（方向性、具体策）	波及効果と懸念事項への対応	倫理・社会持続性観点での 要点、留意点
問題分析と課題提案 あるべき状態との差異	問題の発生原因、ボトルネック 多面的に内容と共に示す	解決の方向性と、すべきこと	懸念事項（新たなリスク） その対策	解決策、リスク対策の実施に当た る際の留意事項
地震による揺れや津波で建築物や 社会資本へ大きな被害が発生して いる  想定を超える外力 外力の繰り返し 複合災害	1.想定を超える外力に耐えられな い 大震度の揺れが連続して発生 液状化の発生 火災の発生 津波による波力、浮力の発生	1.減災対策の実施 1)粘り強い施設の構築 ゆっくり壊れる(脆性破壊しない) 壊れる部位を意図的に作るが、崩 壊には至らない構造とする 2)十分な耐力を保有する施設構築 繰り返し外力に耐える 3)冗長性の確保	リスク：構造が複雑化する 例として RC 構造 過密配筋（帯鉄筋、せん断筋）  対策：意匠、形状の単純化 繊維補強コンクリートなど高強度 材料の使用	倫理：公益確保（公衆の安全） 持続性：経済性への配慮  大地震時に壊れにくいことで利用 者等の安全確保を優先する 性能の確保と費用のバランス取り を考慮する 重要度等で対象施設を選定する
復興に費用と時間を要している 少子高齢化の進行、人員の不足 資金（予算）の不足、制約	2.既存施設の耐力が低い 設計外力が小さい 繰り返し荷重に耐えられない 老朽化により耐力が低下	2.既存施設の安全性確保 1)耐震補強、機能強化の実施 2)計画的なインフラメンテナンス の実施 3)老朽化対策の推進	リスク：対象インフラが多く対策 が追いつかない  対策：施設の集約、廃止	倫理：公益確保（公衆の安全） 持続性：社会的影響への配慮  安全を優先しつつ、経済性も考慮 する 廃止、集約は効用を十分に考慮し 計画・実施する 将来を見据えた計画策定と実施 集約と機能向上をセットで行う
	3.地震リスクが大きい地域への社 会資本や財産の集中 人口の集中  河川河口部 沖積平野 沿岸部	3.リスクの分散、低減 1)都市機能の分散、移転 政治、経済、生産機能の分散によ るリスク低減 2)インフラ耐震化、老朽化対策の 推進 3)冗長性の確保	リスク：機能分散による効率の低 下  対策：ICT の活用 Web、リモート テレワーク VR、AR、MR、メタバース空間 インフラデータプラットフォーム プラトール	倫理：公益確保、労働者の意欲 持続性：社会的影響への配慮  計画的、段階的な実施 ICT 環境の冗長化 リモートとリアルを使い分け 定期的なミーティングによる情報 共有 二地域居住